

新町橋通り等におけるワシントンヤシへの対応について

令和8年3月24日（火）

徳島県県土整備部高規格道路課

ワシントンヤシの現状・課題

現状

推定樹齢90年を超えるワシントンヤシが
中央分離帯に計51本植樹



県道 徳島停車場線 10本



〔出典：国土地理院発行2.5万分1地形図
電子地形図25000(国土地理院)を
加工して作成〕



国道438号 41本

課題



① 高くなりすぎて、
剪定等の**維持管理が困難**

② 枯れた枝葉が道路
に落ち、**車両への物損
事故**が発生



③ **老木化**による倒木等
の危険性が增大
※推定寿命は100年

健全度調査の結果

調査概要

実施日

- ・ R7.8.5 全体調査
- ・ R7.8.20 追加調査

調査方法

- ・ 目視、打診、空洞の計測等により異常箇所を把握

樹木医による評価

- ・ 全51本のうち50本の個体で変状を観察
- ・ そのうち3本は老木化が進行し、概ね5年以内に伐採を含めた対応が必要
- ・ 今後、一斉に近い個体数で衰退していくと予想

変状の例



空洞（幹）



空洞（根元）



部分的に細くなった幹

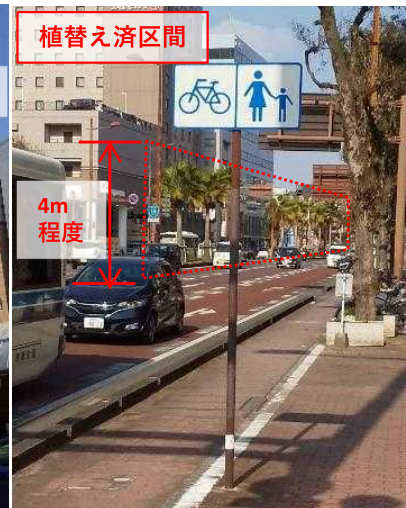


表面のへこみ

今後のワシントンヤシの在り方を検討する時期

宮崎県の調査結果

現地写真 (R8.1.20)



造園業者へのヒアリング結果

寿命

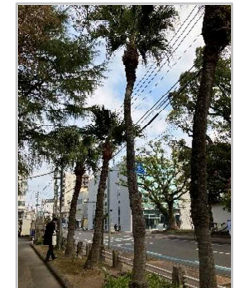
- ・不明だが、事例を考慮すると約100年と想定
- ・4mで植樹（約15年）した場合、更新目安は植栽後約85年

異常を発見するポイント

- ・幹が途中で細くなったり曲がったりしている
- ・幹の根元が地中にまっすぐ入っている（末広がり正常）
- ・幹や根元に空洞がある

造園業者からの提案

- ・何らかのヤシに植え替える場合、高くなりすぎず（おおよそ5~6m）幹が堅固で、安定感のある「ビロウ」を推奨



ビロウ

今後の対応（素案）

伐採後の在り方

植え替え案	メリット	デメリット
同じ種類のヤシの木 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルツリーとしての存在感 ・今と同じ風景が保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく成長することから倒木の影響が甚大 ・老木化による落葉の被害が発生 ・維持管理コストが多
異なる種類の低いヤシの木 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワシントンヤシに比べ、倒木・落葉被害や、維持管理コストの低減が期待 ・今と近い風景が保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ風景が変化 ・県民との合意形成が必要
ヤシの木ではない樹木 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の選択により、倒木・落葉による被害や、維持管理コストの低減が期待 ・新たな風景の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ風景が変化 ・県民との合意形成が必要
樹木を植えない	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理コストの低減 ・樹木スペースの別用途への転用の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ風景が変化 ・県民との合意形成が必要

ワシントンヤシ伐採後の街路樹の在り方について
 「ウォーカブルなまち」に調和したものとなるよう、引き続き検討